

注目のキーワード「スーパーチューズデー」

11月にアメリカ大統領選挙が予定されています。共和党のトランプ大統領が再選を果たすのか、民主党候補者が大統領の座を射止めるのか、非常に注目が集まります。それに先立ち、各党の大統領候補者を選出する予備選挙・党員集会がアメリカ各州で行われています。共和党候補者は現職のトランプ大統領が既定路線ですが、民主党では各州で熱い候補者争いが繰り広げられています。その後、夏に予定されている各党の全国大会において候補者が1人に絞られ、11月の大統領選挙に臨みます。

今回の大統領候補者選出のプロセスにおいて特に注目を集めるのが、14の州で民主党の予備選挙などが予定されている3月3日、「スーパーチューズデー」です。この日には人口の多いカリフォルニア州やテキサス州などで開票が予定されており、この日に約3分の1の票が決まります。このように各州で予備選挙・党員集会が集中する日のことを「スーパーチューズデー」と呼び、過去の大統領選挙においても各党の候補者選出に大きな影響を与えました。1988年から2016年の間に行われた8回の大統領選挙において、各党ともにこの日に勝利した候補者が大統領候補者に選出されています。今回は誰が「スーパーチューズデー」で勝利を収めるのか、注目です。

アメリカ大統領選挙 主なスケジュール(予定)

2月3日	党員集会開始（アイオワ州）
11日	予備選挙開始（ニューハンプシャー州）
3月3日	スーパーチューズデー
7月13日	民主党全国大会（～16日） （民主党大統領候補者が正式に決定）
8月24日	共和党全国大会（～27日） （共和党大統領候補者が正式に決定）
9月29日	大統領候補者テレビ討論会（第1回）
10月15日	大統領候補者テレビ討論会（第2回）
22日	大統領候補者テレビ討論会（第3回）
11月3日	大統領選挙

編集後記

足元でコロナウィルスによる新型肺炎の感染が拡大している。昨年12月8日には中国武漢市で原因不明の肺炎患者が確認されていたとのことだが、感染源はどうやら海鮮市場らしいということでその市場が閉鎖されたのが1月1日。その辺りから日本国内でも報道が増え始め、中国国内での感染者数拡大に伴いこれはSARS(重症急性呼吸器症候群)と同じような問題になるのではないかと報道も一気に増え、日本国内で感染者が確認された1月最終週以降は連日トップニュースとして報道されている。

それにしても、2003年にSARSの感染拡大が問題になったときと2020年では中国経済の規模は比較にならないほど大きく、日本との人の往来も現在の方が圧倒的に濃密だ。北京、上海、重慶、広州を知っていても武漢が人口1,000万人を超える大都市であるにもかかわらずどこにあるのか知らず、その武漢に日本企業が152社(2019/1時点)進出しており数百人の日本人が在住していることも知らなかった人が多いのではないかと。そうした中で訪日中国人数はSARSが収束した2005年で65万人だったのが2019年には959万人と国別では1位(2位は韓国で558万人、いずれも速報値)。当たり前だが中国は多くの面で大国だ。

2月3日現在でも感染者数は拡大しており未だ収束が見える状況ではない。中国国内での休業や中国との人の往来を制限する動きが広がっており、経済への影響もどの程度になるのかが見えない。先が見えないときは極端な悲観論や楽観論が大手を振って歩き回ったりするものだが、そうしたものには振り回されずここは冷静に見極めていきたい。(H.S)